

平成28年度農高・農大就農促進対策事業(農高就農促進対策助成)

事業主体名 国分中央高等学校

1 目的

農業への興味・関心を高め、農業を進路の一つとしてとらえられるように、専門的な学習の取組みで、農業者としての能力や態度を育成することを目的とする。

2 実施状況

(1) 視察研修の実施（活動内容、効果）

1年生は、農業大学校で学校施設や本校卒業生の先輩から直接話を聞き、(有)六田農園さんでは花苗や野菜苗について、(有)竹之下観光農園さんではイチゴ観光農園について学んだ。日頃の学校では学べない独自の管理方法や作るだけでなく売る工夫と海外の方への対応で英語が必要であることを学んだ。生徒から「私は研修に行って、さらに将来の夢が大きくなりました」との声があった。

2年生は、各専攻班で視察を行い、市場や物産館の販売所、加工業者、大学、栽培農家を回り、専門性を高めるとともに、進路の一つのきっかけとなった。



1年視察



2年視察

(2) 農業体験講話の実施（活動内容、効果）

平成29年1月18日(水)農業体験講話を実施した。講師は霧島製茶(株)社長の林修太郎氏で、講話テーマ「茶の海外輸出」について、現在の厳しい茶業界を乗り切るために行っている海外輸出のこと、お茶にかける熱意、5代目としての心構えなどについてお話を聞いた。スライドを用いた丁寧なお話は、生徒にしっかり伝わり、「成功するか分からない目標に向かって努力し、成功するなんてすごい。この講演の経験を将来に役立てたい」「何事にもチャレンジする心を持ち続けたい」「自分は今まで苦勞することから逃げてきて、楽な道を歩んできた。これからはいろんなことに挑戦して、チャレンジ精神を忘れないで頑張りたい」「英語を勉強しないと」など影響を受けた。



農業体験講話

3 今後の課題、取組

視察研修や農業体験講話など、毎年行い評価は得ているものの、職場体験における農家体験者数は1・2名ほどである。農家体験者を増やすとともに、進路における農家従事者に繋がる支援を行いたい。今年度の営農の門出を励ます会対象者は、農業大学校5名、農業協同組合3名(うち2名は他学科)計8名であった。